

平成31年1月定例記者会見要旨(平成30年12月27日開催)

1. 一年間の市政の総括について

今年には瀬戸大橋開通30周年、アメリカ合衆国サウスリート市との姉妹都市提携30周年、そして重要港湾である坂出港開港70周年という節目の年であった。

本市では市民の皆さまが健やかに幸せに暮らせるまちの実現をめざし、「健幸のまちづくり」に取り組んでおり、けんこう課に健幸推進係を設置し、健幸マップと呼ぶウォーキングマップ作成に取り組んでいる。また、ラジオ体操普及事業や健康遊具の設置など多くの関連事業の連携を図り、相乗効果を生み出すとともに、コミュニティ活動やまちづくり等も含めた総合的な事業展開を図ってきた。

さらに、保育料の負担軽減をはじめとして、市公式ホームページの全面リニューアルに合わせて電子母子手帳の導入を行うとともに、坂出商業高等学校情報技術科の協力をいただきながら子育て特設サイトを設けたほか、若手職員による政策提案プロジェクトチームからの提案を踏まえて乳児紙おむつ支給事業を開始するなど、子育て支援について様々な事業展開を行ってきた。

引き続き、「健幸のまちづくり」のさらなる推進や、子ども・子育て支援のさらなる充実を図りながら、「住みたい・子育てしたい まち」の実現に取り組んでいきたい。

2. 入管難民法の法改正に対する見解について

入管法の改正については、制度の詳細が定められていないため、現段階で見解を述べることは困難である。市としては、労働環境の人手不足が解消されるとすれば望ましいことであり、今後制定される基本方針や法務省令、また在留制度への対応等について国の動向を見守っていく。